

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立熊野高等学校	内川 さやか
学校所在地		
(〒 649 - 2195) 和歌山県西牟婁郡上富田町朝来 6 7 0 番地 tel 0739 (47) 1004 fax 0739 (47) 4200		
担当者名	役職名・担当教科	
河野 剛士	教諭・地理歴史科	
<p>〔学校の概要〕和歌山県の中央部、田辺市・白浜町に隣接する上富田町に位置する。古くは“口熊野”とも呼ばれ、熊野古道が本格的な山道〔中辺路〕に分け入るところである。町内の八上王子・稲葉根王子は世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に追加登録されており、熊野参詣道について学習する意義は高い。</p> <p>本校は1923年紀南農学校として開学し、その後、熊野林業学校と改称し、以来林業を学ぶことができる高校として発展してきた。平成16年に総合学科高校に改編、平成20年に看護科が移設された。令和4年度には創立百周年を迎えた。</p> <p>純朴でどの子どももよくあいさつをし、部活動に積極的である。また、町内唯一の高校であることから、上富田町と学校クラブ・サポーターズリーダーを中心に、イベントへのボランティア参加や合同防災訓練、地域の高齢者への声かけ等を行っており、地域との関わりが深い学校である。なお、1学年では平成16年以来、学年の学習として熊野古道ウォークを実施している。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 2, 3年生 60名	職員 4名	会議室
実践研究テーマ		
世界遺産・熊野古道と地域の歴史と文化		
実践教科等名	単元名	
学校設定科目 社会文化研究（地歴公民科）	地域の歴史と文化	
〔キーワード〕世界遺産 熊野古道 地域 観光 情報発信		
<p>〔単元目標〕</p> <p>(1)世界遺産が設けられた経緯や意義、世界・国内の遺産の状況など基本的な事項について理解する。</p> <p>(2)「紀伊山地の霊場と参詣道」に関する基本的な知識について学ぶとともに、世界遺産としての熊野古道がどのような価値を持つものなのかを理解する。</p> <p>(3)(1)(2)での理解を踏まえ、現地学習を通して熊野古道の魅力を体験的に学び、高校生の視点からその魅力や価値、保全のあり方について考える。</p> <p>(4)フォトエッセイ作成を通して、これまでの学習や体験で得たことを情報発信する立場からまとめる。</p>		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕		
全体 50 時間 （「世界遺産・熊野古道と紀南地方の歴史と文化」 10 時間 ）		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕		
和歌山県世界遺産センター 次世代育成事業（世界遺産講座・現地学習）		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	事前学習Ⅰ「THE空海」 空海の業績を通して、高野山における霊場の基本的な知識やその価値について理解する。	高野山で花開いた密教がどのようにして熊野に実を結んだのか、両者の関係について考えさせる。	〔知識・技能〕 〔思考・判断・表現〕 ワークシート
2	事前学習Ⅱ「武蔵坊弁慶」 地元の英雄弁慶の活躍と様々なエピソードを紹介しながら、闘鶏神社の由来について理解する。	源平合戦において裏舞台となった熊野の役割について考えさせる。	〔知識・技能〕 〔思考・判断・表現〕 ワークシート
3	世界遺産入門「紀伊山地の霊場と参詣道」 世界遺産センター職員による講義を通して、「紀伊山地の霊場と参詣道」の基本的な知識やその価値について理解する。	巡回指導を行うとともに、活発な学習を促す。	〔知識・技能〕 〔思考・判断・表現〕 ワークシート
4	熊野古道現地学習 世界遺産マスターの方々によるガイドのもと、写真撮影をしながら滝尻王子から高原熊野神社までを歩く。	「熊野古道フォトエッセイ」の作成意図を明示し、目的を持って現地学習に臨めるように事前学習を行う。	〔思考・判断・表現〕 〔主体性〕 情報収集の成果 (写真等)
5	熊野古道フォトエッセイ作成 現地学習で撮影した写真と調べ学習をもとに、600～700字で熊野古道の良さを語り、その魅力をアピールする。	再度作成意図を説明し、単なる史跡説明や感想文で終わらないよう、読み手に魅力をアピールするようにアドバイスした。	〔思考・判断・表現〕 〔主体性〕 作成したフォトエッセイ
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>この単元は科目の設置以来、学習の柱の1つに位置づけてきた。事前学習では、世界遺産や参詣道に興味を持ちながら、その意義や価値を理解するように工夫を行っている。その上で、現地を歩くことによって、生徒自身の感性と学習内容が結びつき、より深い学びにつながっている。</p> <p>フォトエッセイ作成は半ば恒久化した課題となっている。昨年度に続き本年度も成果物の提出に伴い、古道の魅力アピールに重点を置き「見栄え」も重視するよう指導したが、単なる史跡紹介や感想文で終わっているものも少なからずあった。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>学校設定科目「社会文化研究」のねらいに「和歌山の歴史文化を理解すること」がある。</p> <p>世界遺産学習を設定することで、身近な地域の自然や文化が世界的にも認められた価値を持つことを知り、単に知識としてではなく、継承・保存すべきものとして、地域の文化を理解することができる。多少なりとも、社会参加への意欲も養うことができた。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>社会文化研究では上富田町内の調査を学習活動の一環に位置づけている。授業時数の関係から難しい点もあるが、次世代育成事業の成果を町内の世界遺産学習に発展させて、世界遺産を活かしたまちづくりを考えるとといった学習課題にも取り組みたい。</p>			

様式 2

令和7年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

熊野古道現地学習〔令和7年12月23日（火）実施〕

2・3年生53名（6班編成）が参加した。

世界遺産マスターによるガイドのもと、滝尻王子～高原熊野神社を歩いた。道中、胎内くぐり等で解説を聴くとともに、フォトエッセイ作成のため、各自が魅力を感じた風景を撮影し、古道の魅力を感じながら、フィールドワークを行った。

《日程》

13:10 滝尻王子

15:30 高原熊野神社

熊野古道フォトエッセイ作品例

現地学習の際撮影した写真の中から1枚のみを選び、その写真を通して熊野古道の魅力を伝えるエッセイ。古道に関する情報は200字程度におさえ、古道の魅力をアピールする記述を中心にしている。

単なる感想文になっているものもあったが、自身が撮影した写真を見直しながら、過去や外国人に思いをはせる記述も見られた。

熊野古道 = 自然と歴史

Sacred Sites and Pilgrimage Routes in the Kii Mountain Range

この写真には、熊野古道が持つ静けさと奥深さが表されています。山の景色に、自然に溶け込む水車小屋は、かつてこの地で人々が自然の力を尊重しながら生活してきたことを象徴しています。人が自然を支配するのではなく、その恵みを受け入れ、共に生きてきた姿勢は、熊野古道ならではの価値といえます。

熊野古道は、観光のためだけに存在する道ではありません。古来より信仰の道として、多くの人々が祈りや願いを胸に歩んできました。山道を進む中で、人々は自然の厳しさと優しさの両方に触れ、自らの心を見つめ直してきました。今もなお、この道には長い歴史の中で育まれてきた精神性が静かに息づいています。

熊野古道を実際に歩くことで、訪れる方は自然の音や空気を感じながら、心穏やかな時間を過ごすことができます。忙しい日常から離れ、自分自身と向き合う体験は、旅に深い意味を与えてくれます。この道を歩くことは、日本の文化と自然の在り方を体感できる、忘れがたい思い出となることでしょう。

An ancient pilgrimage route in Japan.

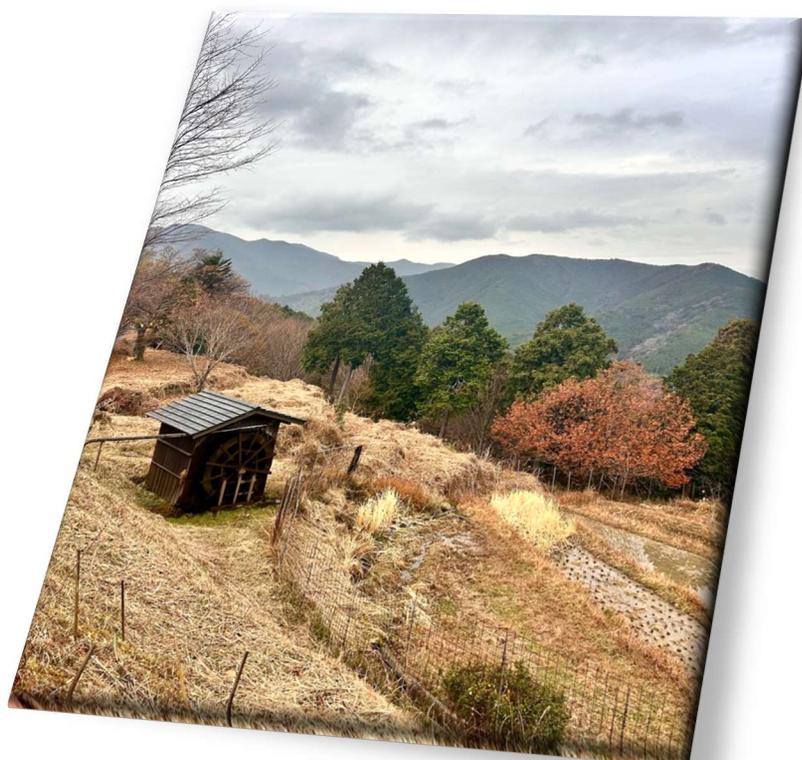
Beautiful mountains and forests.

A quiet and relaxing place.

Walking helps you reflect.

Experience Japanese culture and faith.

A World Heritage site.



田辺市中辺路町高原 高原霧の里

歩いて知った価値

多くの高校生は熊野古道はただの道と思っているのではないだろうか。私自身も熊野古道を歩くまでただの古い山道だと思っていた。しかし、実際に歩いてみると豊かな自然と長い歴史、そして人々の思いが詰まった特別な場所であると気づいた。

熊野古道は平安時代に上皇や貴族の熊野詣が盛んになったことから発展したといわれている。1000年以上もの歴史があり、2004年に「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録された。それは神仏習合の信仰を育んだ「文化的景観」と「参詣道」が、現代まで良好な形で受け継がれているためである。この景観が現代まで良好な形で保存されてきたのは多くの人のおかげだ。熊野古道は雨や台風、季節の変化で道が変化しやすく、傷んでしまう。そのため、全国から集まるボランティアや地元住民などによって定期的な道を整備する活動「道普請」が行われている。これは、風雨で崩れた土をならしたり、落ち葉や泥を取り除いたりして歩きやすい状態に戻す活動だ。地元だけでなく、企業や旅行者も毎年道普請に参加し、世界遺産を未来につなぐ保全活動に力を貸している。

和歌山県の紀南地域に住む多くの学生は、小中学生で熊野古道を歩く機会がある。しかし、当時は「ただ歩くこと」に意識が向きがちで、道のある意義や価値を感じられないまま進んでいた私もその1人だった。高校生になり再び歩いた時、同じ道でも見えるものや感じるものが変わっていた。

熊野古道は単なる道ではなく、こ長い歴史や自然の美しさ、人々の祈りと支える活動のすべてが感じられる。そして多くの人々が日々手を動かしてこの道を守っている。

